

生見オーガニックトマトファーム

有機農業・環境
保全型農業部門

中国四国農政局長賞

所在地：高知県安芸郡東洋町
応募区分：個別経営の部

面積：0.24ha
構成員：1人
栽培品目：トマト、ニンニク

取組の紹介

【促成トマト栽培における有機栽培の実践】

- 平成19年から有機農業を開始し、促成トマト20aとニンニク（露地）4aを栽培。気象要因等から促成の施設栽培で、有機農業は困難であると考えられていたが、牛糞堆肥や緑肥作物などをベースに、米ぬか、もみ殻等を利用することで、土づくり肥料成分を確保。また、土着天敵、微生物農薬、ネットなど物理的な資材利用などの試行錯誤を重ねながらIPMの体系を確立してきた。その結果、トマトの出荷量は開始当初の9t/10aから令和3年には16t/10aに増加。平成23年には有機JAS認証を取得している。令和3年からは障害者（2名）の雇用も開始した。

【環境負荷低減及び効率的な生産に資する取組】

- 土壌診断をベースに施肥設計を行い、適正な施肥量に努め、整枝、摘葉等で発生する植物残渣は、全てほ場に還元している。栽培期間中の6月上旬に畝の上にギニアグラスを播種し、トマト終了後の7月中旬までに繁茂・成長させてからすき込むことで、短期間で土づくりや緑肥の組み込み、害虫（センチュウ）対策を実施することに成功している。

【安定出荷・販路確保の取組】

- オーガニック食品を取り扱う業者数社にトマトを日量合計で150～250kg販売（1～3月の有機栽培トマトではほぼ独占状態）。また、同じ店舗の同じ棚を12月～6月の7ヶ月間占有することで特定の顧客を確保し、売上は年々上昇している。

【消費者等への情報伝達の取組】

- WWOOFジャパンのホストに登録し、外国人を含む会員に収穫体験や食事・宿泊場所を提供することで、有機農業をPRしている。また、農業大学校の講師として、自らが実践している有機農業の取組を学生に伝えている。



オーガニックトマト



緑肥（ギニアグラス）



農作業体験